忰小野一郎義ハ、父と違ひ學問手跡共出來不申、藝名菊川幸吉と申、猿若町羽左衛門芝居笛吹ニ出居候處、右職業モ捗々敷無之、當時ハ相止候由、其上喜右衛門儀、永々眼病相煩、迚モ小野一郎ニ書籍相讓候而モ無詮存候哉、病中追々賣拂、喜右衛門儀ハ、去巳〇天保四年七月十二日病死致し候由、然ル處、同人病死ヲ不存者ヨリ、系譜等之義相賴來候節ハ、小野一郎義、喜右衛門賣殘置候諸家系譜、其外少々之書ものヲ引書ニ致し、調候得共、手跡モ出來不申候間、小普請組室賀壹岐守支配宮岐弓太郎父隱居祖山、幷御先手淺野中務少輔用人之忰名前不知、右之者共ニ相賴認貰、小野一郎受候謝禮之内より、壹枚ニ付七八文ヅヽ相拂候由、此節ハ、賴來り候ものも無數、甚困窮ニ相暮罷在候由ニ御座候、

右風聞承糺候處、書面之趣ニ相聞申候、此段申上候以上、

六月〇天保五年四日　隱密廻り

〔同志夜話五〕今川氏親に從仕しける、鈴木平兵衛家元ハ、掃部助吉行子也、〇略中鈴木家說曰、孝昭天皇五十三年、紀伊國に化人有、岩基隈の北新御山において、十二所權現をあがめ奉る、是を新宮と云、垂迹の始、權現龍蹄に乘り給ひ、千尾の峯に降臨、奉幣の司氏人をめさる、于時漢司府將軍、〇略中三男基行、御秣として稻をすゝむ、依之穗積姓を賜、〇略中三男基行を鈴木と號す、〇略中近世稻基麻呂と云人を僞作し、鈴木氏へ相續したる系圖有、不可信、

〔隨意錄五〕往年朝政、督諸侯大夫士家譜、或有不辨其族譜者、則麾下某者、善爲之作其系譜、其所由來、足以取信矣、彼方亦有似焉、明袁鉉者、積學多藏書、然貧不能自養、游吳中富家、爲之作族譜、研究漢唐宋元以來顯者、爲其所自出、初見之甚信、徐考之、乃多鉉贋作者、明劉昌、懸笥瑣探云、

〔十駕齋養新錄十二〕家譜不可信

顏師古云、私譜之文、出于閭巷、家自爲說、事非經典、苟引先賢、妄相假托、無所取信、寧足據乎、漢書眭孟傳注